

# 編集後記

◆通常国会冒頭解散? ならば! と始めた地元の野党議員の朝の駅での街頭宣伝の手伝いをはじめて3カ月。有権者定点観測の意味もあり週2回朝7時から8時、議員がマイクを持つ間のビラ配り。議員事務所をやっと存在を認められてきた実感が。なかば意地だけど、選挙まで続けるつもり。「継続は力」は意見広告の合い言葉でもあるし。(北原博子)

◆アメリカの人口統計によると白人は少子化傾向にあり、それに比べて多産系のヒスパニックの人口が急増しています。なので近い将来アメリカはヒスパニックの国になる可能性があるそうです。トランプ大統領がメキシ

コとの間に壁を造り移民を締め出したとしてもヒスパニックの勢いを止めることは出来ないよう。そのうちメキシコとの国境もなくなったりして……トランプが造る万里の長城を未来のアメリカ人はお腹を抱えて笑うかも知れません。(細井明美)

◆「我々は巨大な問題に直面している。妄想を抱く大統領がいることだ」。サンダース米上院議員はこう言い切った。有史以来の出来事が進行しているのかも知れない。全てのメディアを敵視し、民衆の不安と抗議の声を踏みにじって暴挙に突き進む新権力者の首に、誰が鈴をつけるのか。少なくとも、日米同盟とアホノミクスの古証文を頼りにすり寄る某国の首相ではない。何れにせよ、妄想大統領と冷戦時代の亡霊のような制服組が核のボタンを左右する地位に就いたという恐怖感に世

界はおののいている。

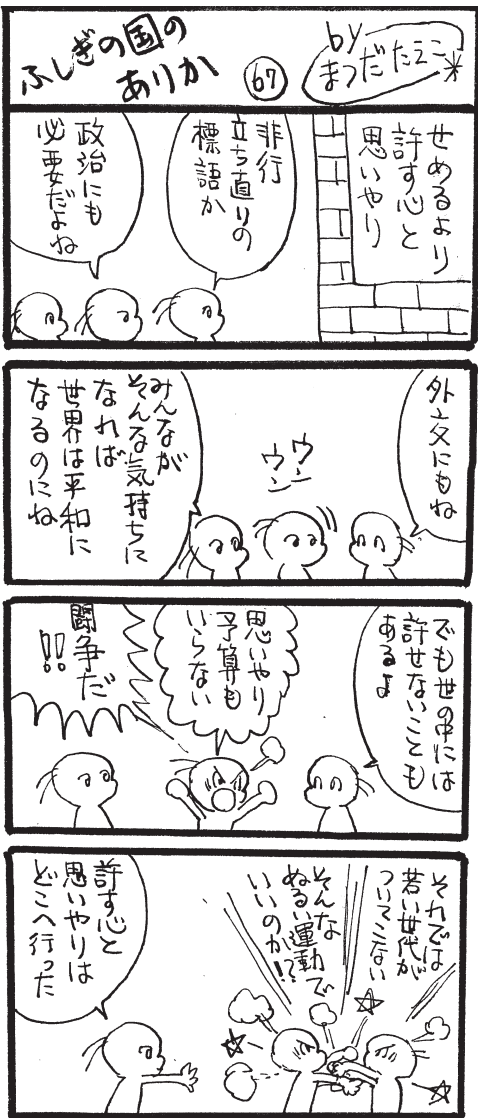
(本野義雄)

◆上関原発反対の集会やデモに行くたびに驚かされたのは、1千万を超える賠償金を要求され法廷に立たされながら「被告」の方たちが明るく前向きな印象だったこと。昨年未送られてきた『勝利的和解成立のご報告と記録』には、家族が支え、地域の友人が支え、その輪が広がっていった様子が克明に記されています。意思表示が新たな人脈を作っていく、全米に広がる反トランプデモを前にその思いを新たにしています。前述の冊子ご希望の方は編集部までご一報ください。(阿部めぐみ)

◆NHK「映像の世紀」のデジタルリマスター版の再放送を見た。次のような映像があった。1956年の「ハンガリー動乱」と呼ばれる市民の戦い。ソビエト軍の戦車・兵士にたいして銃を持ち、撃ち続ける市民と倒れた市民の遺体、そして戦車に制圧された首都ブタペストの姿。1944年「パリ解放」後、ナチ協力者とみなされ頭を丸坊主にされ、引き回され晒し者にされた女性に唾をかける市民の姿。1945年、ムッソリーニとその愛人の死体そしてファシストらの遺体を蹴るローマ市民の姿。これらが圧政と戦った市民の姿の一部。(有馬保彦)

## ◆編集委員

阿部めぐみ、天野恵一、有馬保彦(今号担当)、岡本和之、北原博子、佐々木一成、杉内蘭子、高橋武智、西田和子、細井明美(次号担当)、本野義雄、野澤信一、諸橋泰樹、吉田和雄



2016.12.13.3 AM\*